

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 放課後等デイサービス未来サポートそてつ

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4				・集団行動が行えるよう、死角のない支援員の目が届く空間で国の基準内の広さを用意している。
	2 職員の配置数は適切である	2	2			国の人員配置基準を満たしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2			・バリアフリー化に努めており、トイレ含むは室内車いすでの移動が可能。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	0	2		・活動前後でミーティングを行っています。今後はPDCAサイクルを意識して取り組み記録に残したい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4				・保護者向け評価表を活用し、保護者の方の意向の把握に努めていきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1			・ホームページや広報誌にて公表します。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			3	1	・今後必要に応じて実施の検討を行います。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1			・外部の研修に参加したり、事業所内研修を行っております。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			・見学や体験時の行動観察を記録に残し、保護者面談にてニーズを聞き取る等、また、相談支援員からの計画案を基にして支援計画書を作成しています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1			事業所独自のアセスメントシートを作成している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1			・複数の職員が様々な療育の視点から立案し活動を進めています。終了後は振り返りを行い児童の反応や内容の改善点等確認し記録に残します。また、児童の発達段階に合わせプログラムの内容を変化させることで、スモールステップを作り出し、確実な達成に繋がるよう取り組んでいます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4				
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4				・季節や利用時間に応じたプログラムを用意し取り組んでいます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1			・個別の課題、集団での育ちを踏まえて支援計画を作成しています。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4				・活動の前でミーティングを行なっています。始まる前には児童の様子やプログラムの流れ、支援方法の確認を行い、終了後には支援の振り返りを行い記録しています。それらを改善したり、ステップアップに繋がります。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4				
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1			6か月に1度支援計画の見直しを行なっています。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1		今後は学校もモニタリング会議等への参加が必要と思われる。	・開催される際には児童発達支援管理責任者等の適任者が出席します。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			送迎時や学校と保護者の連絡帳のやり取りを拝見させていただいている(了承得ている方のみ)	・保護者を通して情報を得ています。学校主催の連絡会議が開催される場合は参加させていただいている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			4		現在医療的ケアが必要な児童はいません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		2	2		・必要に応じて情報の共有を行っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4				・同法人内の福祉サービスへ移行する方に関しては情報共有がなされており、その他の方は必要に応じて情報提供を行いません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		2	2		今後必要があれば連携して支援に取り組みたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			4	地域の行事に参加している	・療育の時間が限られており、地域交流が難しい状況があります。児童の状態に応じて必要性があれば支援計画に位置付けた上で考慮していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	1	2		・要請があれば参加しております。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				・お迎えの際や送迎時に情報共有できるよう努めております。必要時には電話やメール用での共有も行ないます。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	1	保護者への対応方法等も学んでいきたい。	・保護者向けペアレント・トレーニングは行っておりませんが、情報共有する際に対方法などのアドバイスの機会を設けています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1			・契約時に重要事項説明書に則って説明をさせていただき、随時不明な点は職員が説明するようにしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4				・必要に応じて対応しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	3	交流の場を設ける必要があると思われる	・感染症対策を行ないながら今後開催に向けて検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1			・苦情があった場合、苦情受付、解決担当に繋げ迅速かつ適切に対応できるよう努めております。また、社内で共有し再発防止につなげます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4				・法人より「広報誌そてつだより」が年4回発行されており、ブログ内で活動内容の報告を行っております。
	35	個人情報に十分注意している	4				・書類はすべて鍵付きのキャビネットに保管しております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1			・分かりやすい伝達方法を工夫したり、伝わる方法を見守りや保護者に合わせるようにしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3			・地域の行事に参加し、事業所を開放する等行っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1		・マニュアルはありますが、保護者通知用に作成しなおし周知を図ります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・火災避難訓練や津波災害を想定した地震避難訓練等行い、備蓄品を確保しつつ、地域との連携を目指し災害に強い事業所づくりに取り組んでおります。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・外部の研修に参加したり、事業所内研修を行っております。内部研修を行っております。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		・現在対象児童はおりません。対象者がいる場合は組織的に決定し支援計画書に記載する体制があります。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		・食事提供はありませんが、個々に保護者確認で対応しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		4		・危険な事例があった際、ミーティングを行い情報の共有は行っているが事例作成までには至っていない為、今後作成していく。